

小笠原諸島からモミヤマシラミバエ

*Ornithoica momiyamai*の初記録

佐藤 雅彦 (利尻町立博物館)

川上 和人 (森林総合研究所・鳥獣生態研究室)

茂木 幹義 (佐賀県佐賀市)

要 約

小笠原諸島から初めてモミヤマシラミバエ (シラミバエ科) が記録された。採集された4♂2♀はメジロ、メグロ、イソヒヨドリから得られ、メグロ、イソヒヨドリが同種の寄主として報告されたことはこれまでなかった。

シラミバエ科Hippoboscidaeに属するハエは鳥類および哺乳類に寄生し、これまで国内からは約25種が記録されている (平嶋, 1989 ; Iwasa, 2001 ; Mogi *et al.*, 2002)。その生活史のほとんどを宿主の身体上で過ごすため、傷病鳥の保護や死亡個体の拾得、鳥類標識調査などにより偶発的に採集されることが多く、現在でもその基礎的な分布や宿主情報などについて不明な点が数多く残されている。そのため、より多くの採集地点や宿主の記録が国内のシラミバエ相の解明には不可欠であり、その中でも特に希少種や固有種とされる鳥類からの記録は決して多くないために貴重な報告となりうる。

2004年から2006年にかけて筆者の一人である川上は鳥類の糞内容物調査のため、小笠原諸島において鳥類の捕獲を行った。調査では、かすみ網を用いて捕獲した個体を通気性の良い紙袋に入れ、個体を取り出した後に紙袋に残された糞内容物を精査した。この結果、メグロ *Apalopteron familiare*、メジロ *Zosterops japonicus*、イソヒヨドリ *Monticola solitarius* から合計6個体のシラミバエが採集され、その後、佐藤、茂木により同定作業が行われた。これまで小笠原諸島におけるシラミバエ科の記録はトラツグミ *Zoothera dauma* から採集されたミゾゴイシラミバエ *Ornithoicta plicata* が報告されているのみであったが (大林ほか, 2004)、同定の結果、以下のとおりモミヤマシラミバエ *Ornithoica momiyamai* Kishida, 1932であることが判明したので、ここに報告する。なお標本はすべて70%エタノールの液浸標本であり、利尻町立博物館にて保管する。

Ornithoica momiyamai Kishida, 1932

Apalopteron familiare. 1 ♂ 1 ♀, Entry to Sekimon, Hahajima Is., 14 Feb 2006, K. Kawakami; 1 ♀, Imotojima Is., 26 Jun 2005, K. Kawakami; 1 ♂, Kitako Port, Hahajima Is., 2 Feb 2004, K. Kawakami.

Monticola solitarius. 1 ♂, Kitako Port, Hahajima Is., 12 Oct 2005, K. Kawakami.

Zosterops japonicus. 1 ♂, Sekimon, Hahajima Is., 1 Jul 2005, K. Kawakami.

モミヤマシラミバエは体長約 2 mm の比較的小型のシラミバエであり、北海道、本州、九州、沖縄の各地において多くの科にわたる鳥類から記録されている。これまでの寄主としては、キジ科 (コジュケイ *Bambusicola thoracica*)、キツツキ科 (アオゲラ *Picus awokera*)、モズ科 (モズ *Lanius bucephalus*)、ミソサザイ科 (ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*)、ツグミ科 (アカヒゲ *Erithacus komadori*、マミジロ *Turdus sibiricus*、クロツグミ *Turdus cardis*、ツグミ *Turdus naumanni*)、ウグイス科 (メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*)、ヒタキ科 (キビタキ *Ficedula narcissina*、オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*)、シジュウカラ科 (コガラ *Parus montanus*、ヒガラ *Parus ater*、ヤマガラ *Parus varius*、シジュウカラ *Parus major*)、メジロ科 (メジロ)、ホオジロ科 (アオジ *Emberiza spodocephala*)、ハタオリドリ科 (スズメ *Passer montanus*)、カラス科 (ミヤマカケス *Garrulus glandarius brandtii*) が報告されているが (Maa, 1967; Mogi *et al.*, 2002; Satô & Mogi, 2008)、メグロ (ミツスイ科)、イソヒヨドリ (ツグミ科) からの採集記録はこれまでなかった。

メグロは、小笠原諸島の固有種で、現在は母島列島にのみに生息しており、渡りは行わない (日本鳥学会, 2000)。小笠原群島のメジロは在来種ではなく、移入された伊豆諸島産亜種 *Z. j. stejnegeri* と火山列島産亜種 *Z. j. alani* の雑種と考えられており (羽山, 1930)、現在は小笠原群島全体に広く生息している (Kawakami & Higuchi, 2003)。イソヒヨドリは小笠原諸島の在来種で、留鳥として諸島内に広く分布している (樋口, 1984)。これらの種は、諸島外と頻繁に移動しているとは考えにくいことから、今回見つかったシラミバエは、メジロの移入時に持ち込まれたものかもしれない。また、小笠原諸島には多種の渡り鳥が渡来することが知られており (樋口, 1984)、モミヤマシラミバエの産地を利用する渡り鳥により持ち込まれたシラミバエが留鳥に寄生した可能性もある。

なお本種の類似種に *O. stipituri* (ニューギニア・オーストラリア)、*O. tridens* (台湾)、*O. simplicis* (東南アジア) がある。今回の標本では一部腹部が萎縮し観察が難しい個体もあったが、オスの腹部腹面の剛毛配列の状態およびメスの交尾器周辺の形態により本報告ではモミヤマシラミバエと判断した (Maa, 1966; 1967)。しかし、これらの種については

現在でも分類学的に未決の問題や検討すべき点が残されており、今後、これらの広い地域を含めた標本の再検討が必要と思われる。小笠原諸島は上記の類似種の生息地域に比較的近い場所に位置するため、本報告で採集された鳥類以外からの寄生性双翅目の今後の新たな発見が期待される。

謝辞

標本の送付や文献についてご教示いただいた牧野俊一氏（森林総合研究所・森林昆虫領域）および本誌への投稿をお勧めいただいた可知直毅氏（首都大学東京大学院理工学研究科）、近藤玲介氏（明治大学研究・知財戦略研究機構）、塚本すみ子氏（ウェールズ大学）に心から感謝申し上げます。なお、本研究の一部は、環境省の地球環境総合推進費（F-051）により行われた。

文 献

- 樋口行雄（1984）：小笠原諸島の鳥類日録. *Strix*, Vol.3, pp.73-87.
- 平嶋義宏監修（1989）：九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集『日本産昆虫総目録』九州大学農学部昆虫学教室、1967p.
- Iwasa, M. (2001) : A new species of the genus *Crataerina* von Olfers (Diptera, Hippoboscidae) with reduced wings from *Apus pacificus* (Apodiformes, Apodidae) in Japan. *Entomological Science*, Vol.4, pp.191-194.
- Kawakami, K. and Higuchi, H. (2003) : Interspecific interactions between the native and introduced white-eyes in the Bonin Islands. *Ibis*, Vol.145, pp.583-592.
- Maa, T. C. (1966) : The genus *Ornithoica* Rondani. *Pacific Insects Monograph*, Vol.10, pp.10-124.
- Maa, T. C. (1967) : A synopsis of Diptera Pupipara of Japan. *Pacific Insects*, Vol.9, pp.727-760.
- Mogi, M., Mano, T. and Sawada, I. (2002) : Records of Hippoboscidae, Nycteribiidae and Streblidae (Diptera) from Japan. *Medical Entomology and Zoology*, Vol.53, Supplement2, pp.141-165.
- 初山徳太郎（1930）：小笠原諸島並びに硫黄列島産の鳥類に就いて。日本生物地理学会会報、Vol.1, pp.89-186.
- 日本鳥学会（2000）：『日本鳥類目録改訂第6版』日本鳥学会、北海道、345p.
- 大林隆司・稲葉 慎・鈴木 創・加藤 真（2004）：小笠原諸島産昆虫目録（2002年版）. 小笠原研究、No.29, pp.18-74.

Satô, M. and Mogi, M. (2008) : Records of some blood-sucking flies from birds and bats of Japan (Diptera: Hippoboscidae, Nycteribiidae and Streblidae). *Rishiri Studies*, No.27, pp.41-48.